

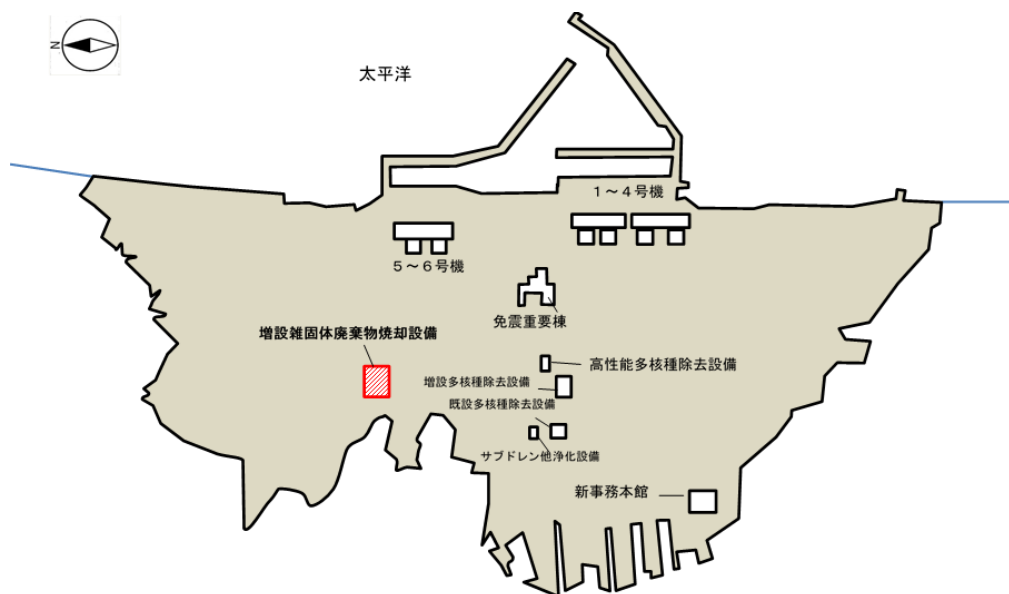
福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和6年10月10日（木）
- 2 確認箇所
増設雑固体廃棄物焼却設備（図1）
- 3 確認項目
増設雑固体廃棄物焼却設備廃棄物貯留ピットにおける伐採木チップ等の回収状況
- 4 確認結果の概要

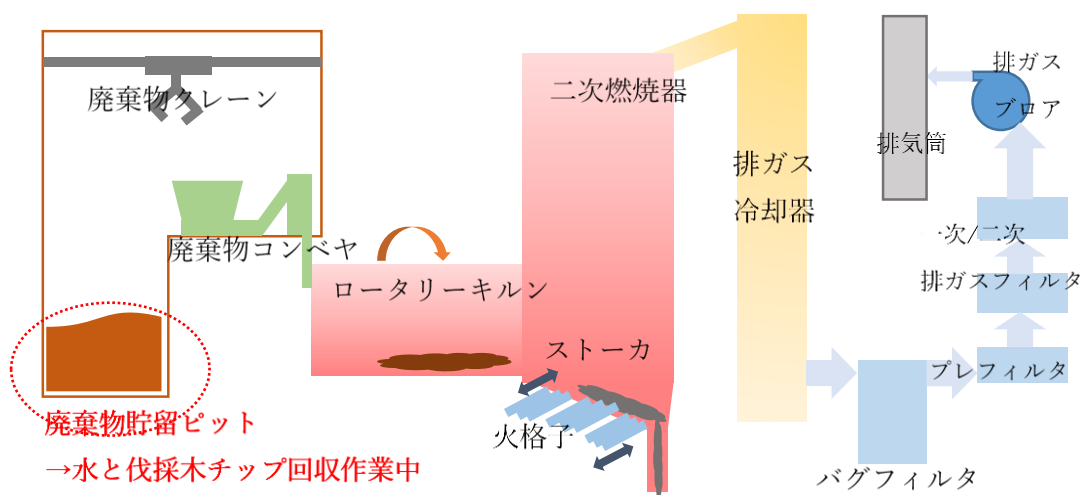
令和6年2月22日に増設雑固体廃棄物焼却設備の建屋内にある廃棄物貯留ピット（以下「ピット」という。）に貯留している伐採木チップから水蒸気が発生したことにより火災報知器が作動したため、伐採木チップの除熱のために散水（約1,200 m³）を行った。散水により水蒸気発生は停止したものの、ピットが水を貯めることを想定した設計ではなく、ピット壁面からの滴下も確認されている（但し滴下は管理区域内にとどまっている）ことから、3月22日よりピット内の水と伐採木チップの回収作業が行われている。（前回確認：令和6年6月5日）

前回に引き続き、増設雑固体廃棄物焼却設備の建屋内において行われているピット内の水と伐採木チップの回収作業を確認した。（図2）

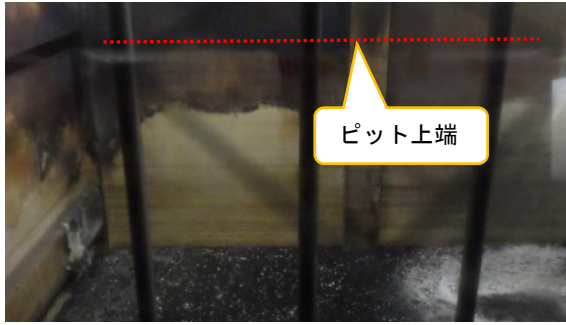
- ・ピット上部からピット内を確認したところ、ピット（深さ約9m）の上端から約7m（前回確認時は約4m）のところに水位があり、水面には伐採木チップ等が浮遊していた。（写真1）
- ・バックホーを使ってピット内にある伐採木チップの回収作業が行われていた。（写真2）
- ・回収作業は、建屋のシャッターが閉じられた状態で行われており、作業により、伐採木チップが建屋外に飛散・流出しない措置が講じられていた。
- ・東京電力によると、回収作業完了後にピット周辺調査・点検を行うとのこと。また、水蒸気発生の影響を受けた機器の更新や再発防止対策を講じた上で増設雑固体廃棄物焼却設備の運転を再開するとしている。



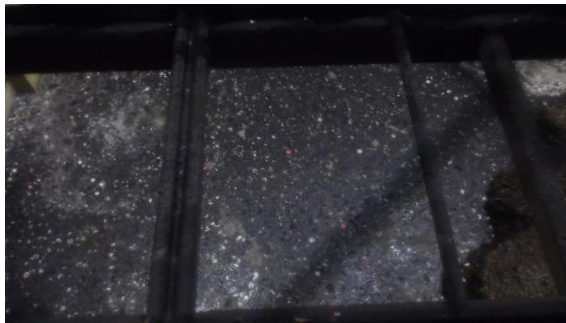
(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(図2) 増設雑固体廃棄物焼却設備の模式図 (東京電力資料を参考に作成)



(写真1-1)
ピット内の状況①
※建屋内にあるクレーン操作室から
撮影



(写真1-2)
ピット内の状況②
※建屋内にあるクレーン操作室から
撮影



(写真2)
ピット内の水・伐採木チップ回収作
業の状況
※建屋内にあるクレーン操作室から
撮影

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。